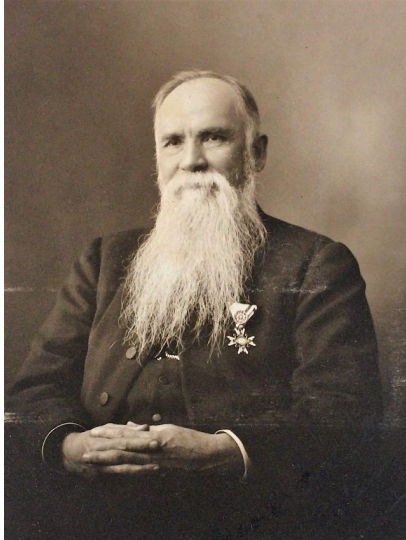


講演会のお知らせ

「アイヌ民族とキリスト教」

講師：田辺 陽子氏



「アイヌの父」ジョン・バチェラー

今年2018年は、北海道命名から150年です。北海道における外国人宣教師の足あととは17世紀前半まで遡ることができますが、1873年（明治6年）にキリスト教が解禁され函館を中心に布教が活発化します。なかでも、英国聖公会宣教協会（CMS）の宣教師たちは、困難な状況にあった先住民族アイヌの人々にキリスト教精神に基づく教育・医療活動をおこない、人間としての尊厳回復と民族の自立を助けました。この講演では「アイヌの父」と呼ばれた宣教師ジョン・バチェラー（1854～1944）やCMS女性宣教師の働き、そしてバーミンガム大学図書館で見つかった「函館アイヌ学校」の写真史料をご紹介します。近代国家日本の成立に宣教師たちの果たした役割や意義を考えます。どうぞご参加ください。

講師 田辺 陽子氏プロフィール： UCLユニバーシティ・カレッジ・ロンドン教育研究所博士課程在籍。コロンビア大学教育大学院卒（教育学修士 Ed.M.）。専門は少数・先住民族の言語及び教育政策。主な編著書に『聖路易通信—1904年セントルイス万国博覧会「アイヌ村」からの便り』（かまくら春秋社、2016年）、『英国聖公会宣教協会の日本伝道と函館アイヌ学校—英国人女性エディス・ベアリング＝グールドが見た明治日本—』（春風社、2018年）

コメント：「アイヌ白人説の起源」先住民族問題研究会代表 尾本 恵市

日時：2018年9月22日（土）：13:00～16:00

会場：聖心女子大学4号館 聖心グローバルプラザ
（メトロ日比谷線 広尾駅4番出口から徒歩2分）

主催：先住民族問題研究会

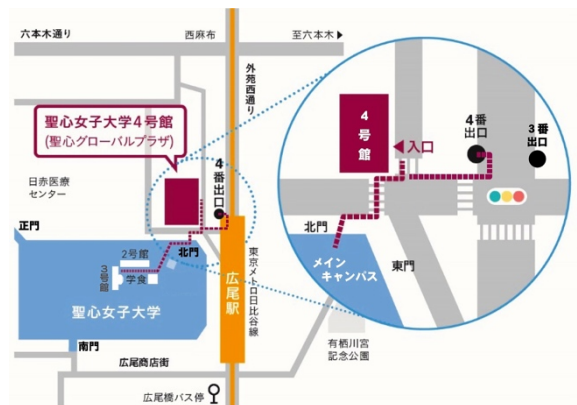
後援：聖心女子大学グローバル共生研究所

参加費：無料

お申込み：下記のGoogleフォーム（リンク/QRコード）もしくはEメールにてお申込みください



<https://goo.gl/forms/izvd7ixun8bICExE2>



先住民族問題研究会（代表 尾本 恵市）Eメール keiichi0637@gmail.com